

探し物はどこにある？－経済データの見つけ方－

竹 中 康 治（教授 経済政策総論）

図書館が知的作業の産物の宝庫であることは言うまでもない。しかし、この宝庫から自分が求めているものを見つけ出すことは実はそれほど簡単ではないかもしれない。確かに、図書館には一定の規則に従って資料が整理されており、コンピュータ検索ができるし、職員も親切であるから、探しているものがはっきりわかっている場合にはすぐに「探し物」を発見できる。ところが、もし署名や著者名、あるいは出版社名もわからず、自分が知りたいことが一体全体どこに出ているのか、それすらもわからない場合には、「探し物」を見つけるまでにかかなりの時間と労力が必要となる。

本来、研究と言うものはこうした「発掘作業」ともなうもので、そこが与えられた教材を消化することを目的とした「学習」と異なるところでもある。「発掘」もそれ自体として楽しい作業であるし、作業の途中で思わぬ「拾い物」がある場合も少なくない。

しかし、教材が与えられることに慣れ、かつインターネットに慣れている多くの学生にとって「発掘作業」は苦痛であるかもしれないし、そのためにはじめから「発掘作業」をあきらめてしまうかもしれない。特に、各種の経済データについてはそうであるかもしれない。

そこで「発掘作業」の入門者向けに、基本的な経済データがどこにあるかの簡単な道案内を試みることにする。

(1) マクロデータ

- ① 物価 『物価指数月報』、『物価指数年報』（ともに日本銀行調査統計局）、
『消費者物価指数』（総務省統計局）
- ② 国内総生産、国民所得 『国民経済計算年報』（内閣府経済社会総合研究所）
- ③ マネーサプライ、国内銀行の預金・貸出し・資産残高、各種利回り
『金融経済統計月報』、『金融経済統計年報』（ともに日本銀行調査統計局）
- ④ 国際収支 『国際収支統計年報』（日本銀行国際局）

(2) 貿易データ

- ① 輸出入(総額、商品別) 『外国貿易概況』（財務省関税局）

(3) 労働

- ① 労働力人口、完全失業者数、完全失業率 『労働力調査』（総務省統計局）
- ② 有効求人倍率 『労働統計年報』、『職業安定業務統計』（ともに厚生労働省職業安定局雇用政策課）
- ③ 給与総額、賃金指数 『勤労統計調査』（厚生労働省統計情報部）

(4) 人口、家計

- ① 人口 『人口推計年報』（総務省統計局）、『日本大学人口研究所人口推計』（日本大学人口研究所）
- ② 家計 『家計調査』（総務省統計局）

(5) 産業

- ① 工業 『経済産業統計』（経済産業省経済産業政策局調査統計部）
『工業統計表』（通商産業省大臣官房調査統計部、経済産業省経済産業政策局調査統計部）

製品別統計として、

『鉄鋼統計年報』、『紙・パルプ統計年報』、『化学工業統計年報』、『プラスチック製品統計年報』、『窯業・建材統計年報』、『資源エネルギー統計年報』、『雑貨統計年報』、『機械工業統計年報』、『ゴム製品統計年報』（以上すべて経済産業省経済産業政策局調査統計部）

- ② 商業 『商業販売統計』（経済産業省経済産業政策局調査統計部）
『商業統計表』（通産省官房調査統計部）

(6) 企業会計

『有価証券報告書』、『日経企業経営指標』（日本経済新聞社）、『企業経営の分析』（三菱総合研究所）、『企業財務カルテ』（東洋経済新報社『東洋経済』別冊）

(7) 株式

『株価総覧』（東洋経済新報社）

ここでは主に政府機関の統計類を紹介したが、その他にも新聞社、研究機関、業界団体等が独自に調査した統計類がある。こうした統計類はほとんどすべてと言ってよいと思うが、経済学部図書館に所蔵されている。また、『日経NEEDS』その他を通じてオンラインで各種統計が入手できる(ただし、図書館でのみ利用可能)し、書籍の他にもCD化されたデータが所蔵されている。CDは備付けの専用パソコンで利用できる。さらに、学部生や院生は所定の手続きによって書庫への入庫が出来るので、もっと直接的に文献やデータの「発掘作業」が楽しめる。

最後にわが国の代表的統計を集めた便利なデータ集として次を紹介しておこう。

- (8) 『経済統計年鑑』（東洋経済新報社）

